アジア英語に共通する発音の特徴：KANDA×TUFS 英語モジュールのインド、フィリピン、シンガポール、マレーシア版を分析対象に

関屋　　康
矢頭　典枝

要　旨

本稿では、KANDA×TUFS 英語モジュールの一環として開発した 4 つのアジア英語版―「シンガポール英語」「インド英語」「フィリピン英語」「マレーシア英語」―に見られる共通の音声的特徴について、本モジュールの発音記述を提示しつつ分析し、すでに開発されている「アメリカ英語」「イギリス英語」など Kachru が提唱する内部圏の英語のモジュールとの比較を試みた。分析の結果、内部圏の英語とは違う以下の共通する音声的特徴が観察された。1)語アクセントのシフト、2)狭い二重母音の単母音化、3)歯（間）摩擦音の破裂音化、4)子音群における子音の脱落、5)音節のリズム、6)母音弱化の欠如、7)無声破裂音の無気音化、8)暗い/l/に代えての明るい/l/の使用。これら 4 種のアジア英語の音声的特徴は先行文献でも指摘されているが、本モジュールにおいても確認することができた。また、上述特徴の中、これらのアジア英語を聞く上で intelligibility に影響を与える可能性がある特徴についても論じた。

はじめに

「KANDA×TUFS 英語モジュール」（以下、「英語モジュール」）の開発[1]が始まってから 2021 年で 10 年が経過し、これまでにアメリカ英語、イギリス英語、オーストラリア英語、ニュージーランド英語、カナダ英語、アイルランド英語、シンガポール

[1] その意義と特徴については関屋、矢頭、マーフィー（2015）を参照

英語、インド英語、フィリピン英語、マレーシア英語の 10 の英語モジュールが公開された。上記のうち最初の 6 つの英語モジュールは Kachru が提唱した「三つの円」の内部圏の英語、他の 4 つは外部圏の英語である[2]（Kachru, 1985）。最初に開発したアメリカ英語モジュールを雛形として、まず内部圏英語のモジュールを開発し、その後、外部圏のアジア英語モジュールを開発した。各英語モジュールには 40 会話の動画があり、そのうち後半の 20 会話は基本的に同じスクリプトになっている。しかし、アジア英語版の開発に当たっては、欧米諸国にはみられないアジア特有の社会的・文化的特質を反映させる必要があり、共通スクリプトのいくつかはアメリカ英語の雛形をそのまま使うことができず、部分的な変更を余儀なくされ、語彙と場面設定において結果的に内部圏の 6 つの英語変種版とはかなり異なるものに仕上がったことが指摘された（矢頭、2018；矢頭、2021）。

英語の発音面においても、アジア英語版ではそれぞれの国民の母語に影響された独特な発音が聞かれ、内部圏の英語モジュールとは格段に音色が異なるものに仕上がった。本稿では、上記の 4 つのアジア英語版の動画に出てくる発音を分析し、それらの全て或いはいくつかに共通すると考えられる特徴について考察する。

１．語アクセント（強勢）のシフト

インド英語、フィリピン英語、シンガポール英語、マレーシア英語のすべてに共通する発音の特徴の中で最も顕著なものとして、内部圏の英語とは異なる音節に語アクセント（強勢）が置かれる点を挙げることができる。この点について英語モジュールのなかでは表 1 のように説明している。

[2] Kachru の「三つの円」の Inner Circle、Outer Circle、Expanding Circle は「内円圏」「外円圏」「拡大円圏」と訳されることもあるが、本稿では「内部圏」「外部圏」「拡大圏」を使う。

表 1．語アクセント（強勢）のシフトに関する発音説明の例

モジュール名	スクリプト	発音説明
インド英語	I encouraged them to ask questions in the class, and they actually asked many questions.	"encourage"は語アクセントが移動し、第 1 音節"en-"に置かれている。米英語・英英語では、第 2 音節"-cou-"にアクセントが置かれる。"actually"も語アクセントが移動し、第 2 音節"-tual-"に置かれている。米英語・英英語では、第 1 音節"ac-"に置かれる。[会話 4．経験についてたずねる]
	A portrait of Radha and Krishna.	"portrait"はアクセントが"-trait"に来ている。米英語・英英語では"por-"にアクセントが来る。[会話 6．能力についてたずねる]
	She wants to buy some Indian handicrafts as gifts for her colleagues there.	"colleagues"のアクセントが"-ea-"の部分に置かれ、最初の音節の母音は弱化している（米英語・英英語では最初の音節にアクセントがある）。"handicrafts"は米英語・英英語では最初の"han-"に第一アクセントが置かれるが、ここでは両方の要素が同じ強さで発音されている。[会話 10．提案する]
フィリピン英語	I just came home for my sister's wedding. Jennifer is finally getting married. And we had pamanhikan with the groom's family yesterday.	"wedding"の強勢は、米英語・英英語とは異なり、第 2 音節に置かれている（比英語の特徴）。"married"の強勢は、米英語・英英語とは異なり、第 2 音節に置かれている（比英語の特徴）。"yesterday"の第一強勢は、第 3 音節に置かれている（比英語の特徴。米英語・英英語では第 1 音節に置かれる）。[会話 1．挨拶する]
	OMG! I don't have money.	"money"は米英語・英英語では第 1 音節に強勢があるが、ここでは第 2 音節（-ney）に強勢が移動している。[会話 3．人にものをあげる]

フィリピン英語	Wow! How about Thailand?	"Thailand"の強勢が第 2 音節にある（米英語・英英語では強勢は第 1 音節におかれる）。[会話 4. 経験についてたずねる]
シンガポール英語	Oei, your document, cannot using the feeder.	"feeder"は最後の音節"-der"にアクセントが置かれている。[会話 5. 手段についてたずねる]
	I got them from market this morning.	"market"と"morning"は最後の音節にアクセントが置かれている。[会話 21. 感謝する]
	We are going to do a barbecue during lunchtime.	"lunchtime"の両方の音節に同等の強勢が置かれている（米英語・英英語では第一強勢は第 1 音節に置かれる）。[会話 39. 招待する]
マレーシア英語	I'm bigger than you lah.	"bigger"のアクセントは"ger"の部分に置かれている。[会話 3. 人にものをあげる]
	once the kid gets it, they pass it to you one, surely.	"surely"の強勢は"ly"の部分に置かれている。[会話 4. 経験についてたずねる]
	Ah, the lamb got some side dish.	"side dish"は"side"と"dish"の両方に同程度の強勢が置かれている（米英語・英英語では複合語アクセントが適用され、"side"に第 1 強勢、"dish"に第 2 強勢が置かれる）。[会話 27. 程度についてたずねる]

以上の例に見られるように、外部圏に属するこれら 4 種のアジア英語では内部圏の英・米英語とは異なるアクセントの型を持つ単語が多く存在し、この特徴は先行研究でも指摘されている（インド英語：Sailaja, 2009; Gargesh, 2004; フィリピン英語：Tayao, 2004; シンガポール英語：Wee, 2004; マレーシア英語：Baskaran, 2004）。また、これら 4 種の英語はいずれも強勢リズムではなく音節リズムを持っており、全ての音節が同じ長さで発音される傾向があるため、プロミネンス（卓立）が英・米英語のように明確ではなく、強勢の位置を見分けるのは必ずしも簡単ではない

（Wee, 2004）。またマレーシア英語では多音節語の 2 つの音節が同程度のプロミネンスを持って発音される場合があることも報告されている（Baskaran, 2004）。例えばマレーシア英語の[会話 19] “My children all naughty.”の“naughty”は両方の音節に強勢が置かれて発音されている。

さらに内部圏の英・米英語の複合名詞のアクセントでは、複合語の第一要素に第一強勢が置かれ、その後でピッチが下がる型が多いが（Kreidler, 2004）、これら 4 種のアジア英語では両要素に置かれる傾向がある。例えば、上述のインド英語の[会話 10] “handicrafts”、フィリピン英語の[会話 4]の“Thailand”、シンガポール英語の[会話 39] “lunchtime”、マレーシア英語の[会話 27] “side dish”では両要素に同程度の強勢が置かれている。

単語レベルのアクセントの型は聞き手が語を認識する上で重要な働きを担っており（Dauer 2005, Zielinski, 2008; Levis, 2018）、内部圏とのアクセント型の違いがこれらアジア英語の聴き取りを難しくしている一要因と言えるかもしれない。

２．狭い二重母音（/eɪ/, /oʊ/）の単母音化

また、これら 4 つのアジア英語に共通する顕著な発音の特徴として狭い二重母音（/eɪ/と/oʊ/）の単母音化が挙げられる。この点について英語モジュールのなかでは表 2 のように説明している。

表 2. 二重母音の単母音化に関する発音説明の例

モジュール名	スクリプト	発音説明
インド英語	Wow, that's great!	"grEAt"は長母音で「エー」と発音している（印英の特徴。米英語・英英語では二重母音で「エイ」）。[会話 1．挨拶する]

インド英語	First soak rice in water for 30 minutes.	"sOAk"の母音は単母音化して「ソーク」のように聞こえる（米英語・英英語では二重母音「オゥ」を用いる）。[会話 5．手段についてたずねる]
	I'm stuck with some drawings, you know.	"knOW"の母音は単母音化して、「ノー」のように発音されている（印英語の特徴）。[会話 6．能力についてたずねる]
フィリピン英語	Okay. I look forward to that.	"Okay"の最初の母音が単母音化して、「オケィ」のように聞こえる。[会話 1．挨拶する]
	Why are you alone?	"alone"の"o"は単母音[o]で発音され、「アローン」のように聞こえる。[会話 2．注意をひく]
	I hope I can become like him someday.	"hope"の"o"は単母音で発音されており、「ホープ」のように聞こえる。[会話 19．希望をのべる]
シンガポール英語	Take MRT lah. Already quite late.	"tAke"は/eɪ/ではなく、「エ」と発音されている。"lAte"は/eɪ/ではなく、「エ」のように発音されている。そのため、"quite late"は「クワイッレッ」のように聞こえる。[会話 3．人にものをあげる]
	Hahaha, I think I understand the jokes about bringing the maids into the army.	"mAIds"は/eɪ/ではなく、「エ」のように発音されており、「メッズ」のように聞こえる。[会話 4．経験についてたずねる]
マレーシア英語	What's his name? Aiyah, I don't know.	"name"の"a"は単母音化して、「ネーム」のように聞こえる。"know"の"ow"は単母音化して、「ノー」のように聞こえる。[会話 2．注意をひく]
	Let me check the baju kurungs that I have from home. Oh, by the way,	"home"の"o"は単母音化しており、「ホーム」のように聞こえる。"way"の"ay"は単母音化しており、「ウェー」のように聞こえる。[会話 3．人にものをあげる]

以上の例のように、狭い二重母音/eɪ/と/oʊ/の単母音化はこれら4種のアジア英語に共通する特徴である。但し、フィリピン英語に関しては、Tayao（2004）の母音の記述と呼応して、本モジュールでは上述の例のような/oʊ/の単母音化[o]/[o:]は頻繁に観察される一方で、/eɪ/は二重母音として発音されている。また、シンガポール英語では、上述の[会話 3.] “take” “late”や[会話 4.] “maids” のように二重母音[eɪ]は単母音化するものの、長母音の[e:]ではなく、短母音[e]として発音されることが多い。

狭い二重母音/eɪ/と/oʊ/の単母音化は内部圏、外部圏の様々な英語変種で見られることが報告されている（Schneider, 2004）。Jenkins（2000）は、この二つの二重母音に関して、intelligibility（聴き手が発話を聞いて語や句を認識できること）に関与するのは母音の長さであり、単母音化しても長母音として、二重母音の長さを保っているのであればintelligibilityには影響を与えないとしている。この観点からすると、インド英語、フィリピン英語、マレーシア英語で観察される二重母音の単母音・長母音化はintelligibilityには影響を与えないが、シンガポール英語の単母音・短母音化はintelligibilityに影響を与える可能性があると言えるかもしれない。

３．“th”（/θ/と/ð/）の破裂音化

内部圏の歯（間）摩擦音“th”（**/θ/と/ð/**）が有声、無声を問わず摩擦音ではなく、それぞれ破裂音[t]と[d]で発音される傾向が見られる。

表 3．“th”の歯裂音化に関する発音説明の例

モジュール名	スクリプト	発音説明
インド英語	I <u>think</u> they are all very busy. Oh, <u>there</u> he comes.	"think"の/θ/は閉鎖音で、日本語のタ行と同じ。"there"の/ð/は閉鎖音で、日本語のダ行と同じ発音。[会話 2．注意をひく]

インド英語	Thank you so much, Jasmine.	"Thank"の"th"は日本語のタ行音のように破裂する音になっている。[会話 6．能力についてたずねる]
	They serve authentic south Indian food.	"authentic"の"th"は破裂音となり「タ行」の音のように発音されている。[会話 13．妥協する]
フィリピン英語	Let's go then.	"then"の"th"はここでは有声歯茎破裂音[d]で発音されている。[会話 2．注意をひく]
	That goes well with coffee.	"That"の"th"は有声歯茎破裂音[d]で発音されている。[会話 3．人にものをあげる]
	Thank you.	"Thank"の"th"は無声歯茎破裂音[t]で発音されている。[会話 7．場所についてたずねる]
シンガポール英語	Er, I think she can't hear you.	"think"の/θ/は[t]で発音され、/k/は閉鎖の開放がないため、「ティン」のように聞こえる。[会話 2．注意をひく]
	It's nothing.	"nothing"の/θ/は[t]で発音されており、"-ing"にアクセントが置かれている。[会話 21．感謝する]
マレーシア英語	He is not that famous lah	"that"の"th"は[d]の音で発音されていて、「ダット」のように聞こえる。[会話 2．注意をひく]
	Thanks so much!	"Thanks so"の"th"は[t]の音で発音されて、「テンクソー」のように聞こえる。[会話 3．人にものをあげる]

以上のように、この 4 種のアジア英語では歯（間）摩擦音の/θ/と/ð/はそれぞれ/t/と/d/の破裂音に置換される傾向が観察される。内部圏の英語の地域方言や社会方言でも/θ/と/ð/は/t/と/d/、或いは/f/と/v/で置換されることがあることが報告されている（Smith, 2013）。また、拡大圏の英語では/θ/と/ð/は母語によって/s/と/z/で置換する話

者（例：日本語話者やフランス語話者）と/t/と/d/で置換する話者（例：ロシア語話者）が存在することが知られているが（Brannen, 2016）、この外部圏の 4 種のアジア英語話者は後者のタイプに属することがこのモジュールから窺える。これらの置換に関しJenkins（2000）は外部圏や拡大圏の英語話者同士の会話では intelligibility には影響を与えないと述べている。

４．子音群における子音の脱落

これらアジア英語に共通するもう一つの特徴として、子音群における子音の脱落を挙げることができる。表 4 にモジュールからの例を挙げる。

表 4．子音群における子音の脱落に関する発音説明の例

モジュール名	スクリプト	発音説明
インド英語	Students are pretty <u>helpful</u> here.	"helpful"の/p/が脱落して「ヘルフル」のような発音になっている。
	I <u>can't</u> believe we're moving out.	"cAn't"は長母音で、/t/は発音されていない。"can't believe"で「カンビリーヴ」のように発音されている。[会話 24．さよならを言う]
	So, are you going to Ravi's <u>birthday</u> party on Saturday?	"birthday"は「バーデイ」のように聞こえる。これは"ir"の/r/が発音されていないこと、および"th"の発音が脱落したために生じたと考えられる。[会話 35．条件をつける]
フィリピン英語	I saw your <u>post</u> on FB and they're great!	"post"の語末の子音連続のうち、最後の/t/が脱落している。[会話 4．経験についてたずねる]
	Ate, I have a <u>project</u> in H.E.	"project"の語末の子音クラスター/kt/のうち、一番最後の/t/が脱落している。[会話 6．能力についてたずねる]

フィリピン英語	Perfect.	"perfect"の語末の/t/は脱落し、/k/は開放が省略されて「パーフェッ」のような発音になっている。[会話 9．比べる]
シンガポール英語	Uh, uh, hello! Excuse me!	"Excuse"の/k/は発音されておらず、"Excuse me"で「エスキュースミー」のように聞こえる。[会話 2．注意をひく]
	I go check with them first.	"first"の語末の/t/は脱落し、「ファス」のような発音になっている。[会話 10．提案する]
	Army changed me.	"changed"の/d/が脱落している。[会話 4．経験についてたずねる]
	We also ordered a slice of chocolate cake to da bao.	"of"の/v/、"chocolate"の/t/、"cake"の/k/は発音されておらず、"slice of chocolate cake to da bao"で「スラソ チョコレイ ケイトゥ ターパオ」のように聞こえる。[会話 2．注意をひく]
マレーシア英語	Scold her also no use one lah.	"Scold"の"d"は脱落している。[会話 12．例をあげる]
	I checked my watch so many times.	"checked"は"ed"の発音が脱落していることに加え、"ck"のは開放も省略されており聞こえない。この結果、「チェッ」のような発音になっている（マレーシア英語の特徴）。[会話 28．時間についてたずねる]
	He asked if I can fetch him from the airport at 5:00 tomorrow morning.	"asked"の"ked"は脱落しており聞こえない。[会話 15．しなければならないと言う]

子音群における子音の脱落は内部圏の英英語や米英語の発話でも見られる現象であるが、上述の英語モジュールの例からは内部圏の英語では通常見られない子音の脱落までもが起きていることを示している。特にシンガポール英語やマレーシア英語で見

られる子音群における子音の脱落現象はかなり頻繁に観察され、先行研究でも報告されている（シンガポール英語：Wee, 2008; マレーシア英語：Baskaran, 2008）。本英語モジュールでも見られるように、両英語変種では/t/, /d/を語末に含む子音群で、/t/, /d/が脱落する傾向がある（例：上述のシンガポール英語 [会話 4] “first”, マレーシア英語 [会話 12] “scold”）（Wee, 2008; Baskaran, 2008）。また、これらの英語では過去形・過去分詞形の活用語尾の添加によって生じる子音群における/t/, /d/の脱落（例：上述のシンガポール英語 [会話 4] “changed”, マレーシア英語 [会話 28] “checked”）は意味や内容理解に影響を与えるので会話の際には注意を要する。尚、これら 2 つの英語変種の子音脱落の詳細については Wee（2008）と Baskaran（2008）を参照されたい。

５．音節が時間的に等間隔に現れるリズムの発話

この 4 種のアジア英語変種に共通する音声的特徴の 1 つに音節リズムを挙げることができる。

表 5. 音節が時間的に等間隔に現れるリズムを持つ発話の例

モジュール名	スクリプト	発音説明
インド英語	Would you like salad or French fries?	全ての音節がほぼ同等の強さで発音され、等間隔に並んでいる音節のリズム。（米英語や英英語は強弱が交替する強勢のリズムを持つ）［会話 27. 程度についてたずねる］
	Professor Satyanath, let me introduce our honored guest. He is Mr. Miyauchi, the President of Kanda University of International Studies in Japan.	全体として音節を単位に持ったリズムで発話されている（米英語や英英語は強勢が置かれる間隔をリズムの単位とする）。［会話 20. 人を紹介する］

インド英語	First, you need to complete the application form.	全ての音節が大体同等の強さで発音され、等間隔に並んでいる音節のリズム。（米英語や英英語は強弱が交替する強勢のリズムを持つ）［会話 33．順序について述べる］
フィリピン英語	But the international audience were friendly.	この発話だけでなく、全体として音節を単位に持ったリズムで発話されている（米英語や英英語は強勢が置かれる間隔をリズムの単位とする）。［会話 4．経験についてたずねる］
	I have been consistent academic awardee, you know.	音節を単位に持ったリズムで発話されている（米英語や英英語は強勢が置かれる間隔をリズムの単位とする）。［会話 18．要求する］
	My mother from province sent us some.	この発話だけでなく、全体として音節を単位に持ったリズムで発話されている（米英語や英英語は強勢が置かれる間隔をリズムの単位とする）。［会話 22．自己紹介する］
シンガポール英語	John's parents have booked a chalet and they're letting him use it this weekend.	全ての音節がほぼ同等の強さで等間隔に並んで発音されており、全体として音節のリズムを持っている。［会話 39．招待する］
	Wah. Got take any wakeboarding pictures or not?	全ての音節がほぼ同等の強さで等間隔に並んで発音されており、全体として音節のリズムを持っている。［会話 32．好きな行動について述べる］
	Or is the MRT supposed to be here 5 minutes ago?	全ての音節がほぼ同等の強さで等間隔に並んで発音されており、全体としとして音節のリズムを持っている。［会話 28．時間についてたずねる］
マレーシア英語	and she want to invite them over for dinner.	音節が時間的に等間隔に出てくる傾向が聞き取れる（マレーシア英語の特徴。米英語・英英語では強勢の置かれる音節が等間隔に出てくる）。［会話 6．能力についてたずねる］

マレーシア英語	Tell her to be careful and take care okay.	音節が時間的に等間隔に出る音節リズムが顕著に現れている（マレーシア英語の特徴）。[会話 11．依頼する]

内部圏の英・米英語は比較的等間隔で強勢が繰り返される強勢拍リズムを持つと言われている（竹林 1996）。これに対して、これら 4 種のアジア英語変種は各音節が比較的等間隔で発音される音節リズムを持っていることが報告されている（インド英語：Trudgill and Hannah, 2017; Gargesh, 2008; フィリピン英語：Tayao, 2008; シンガポール英語：Wee, 2008; マレーシア英語：Baskaran, 2008）。例えば、上述のシンガポール英語[会話 39]の“John’s parents have booked a chalet and they’re letting him use it this weekend.”は、英・米英語では通常“John’s parents,” “booked,” “chalet,” “letting,” “use,” “weekend”の内容語に強勢が置かれ、その他の“have,” “a,” “and,” “they’re,” “him,” “it”の機能語には強勢が置かれずに強弱の音節が交替する強勢拍リズムの傾向を持って発話されることが予想される。しかし、シンガポール英語のこの発話では全ての語が同等の強さで発音され、音節が等間隔に現れる音節リズムが観察される。

内部圏の英・米英語では、文中で強勢を受ける語の強音節は音の大きさが増大するだけでなく、ピッチも高く、長さも長く、明瞭な音質を持って発音されるため、強勢を受けない弱音節に比べるとかなりのプロミネンスを持つ。通常、意味情報が多い名詞や動詞等の内容語（the content word）に強勢が置かれ、意味情報が少ない冠詞や代名詞などの機能語（the function word）には強勢はあまり置かれない（竹林 1996; Kreidler, 2004）。内部圏の英語のこの特徴は意味的に重要な内容語の聴き取りにおいて重要な働きをしており、発話の intelligibility は正確な強勢の型と強勢を担う音節の母音の正確な発音に影響されると言われている（Zielinski, 2008; Celce-Murcia et. al., 2010）。この事から、少なくとも英・米英語の強勢リズムに慣れた聴き手にとっては、アジア英語の音節リズムに基づく発話は intelligibility にかなりの影響を与

えることが推測される。

６．母音弱化しない傾向

内部圏の英・米英語で弱化する母音がこれらのアジア英語では弱化しない傾向が観察される。

表 6. 母音が弱化しない例

モジュール名	スクリプト	発音説明
インド英語	I'm hopeless with drawings.	"hopeless"の"less"の母音が弱化しないで、[e]と発音されている。[会話 6. 能力についてたずねる]
	I had two classes.	"classes"の"es"の母音が弱化しないで、[e]と発音されている。[会話 4. 経験についてたずねる]
	This would be appropriate for you.	"appropriate"の"ate"の母音が弱化しないで、[e]と発音されている。[会話 9. 比べる]
フィリピン英語	I also read somewhere that symptoms can be extreme.	"symptoms"の"tom"の母音が弱化しないで、[o]と発音されている。[会話 12. 例をあげる]
	No problem, sir.	"problem"の"lem"の母音が弱化しないで、[e]と発音されている。[会話 11. 依頼する]
	Let me give you directions.	"directions"の"-tions"は米英語・英英語ではあいまいな音色を持つ弱母音を用いて発音するが、ここでは明確な音色を持つ強母音が用いられている。[会話 39. 招待する]
シンガポール英語	I got them from the market this morning.	"them", "market"の"ket"の母音が弱化せずに[e]と発音されている。[会話 21. 感謝する]
	And I see your document got picture.	"document"の"ment"の母音が弱化せずに[e]と発音されている。[会話 5. 手段についてたずねる]

シンガポール英語	I can collect.	"collect"の"co"の母音が弱化せずに[o]と発音されている。[会話 19．希望を述べる]
マレーシア英語	So I'm going to get her birthday present there.	"present"の"ent"の母音が弱化せずに[e]と発音されている。[会話 8．意見を述べる]
	Okay, connect to the printer using the wifi.	"Connect"の"con"の母音が弱化せずに[o]と発音されている。[会話 5．手段についてたずねる]
	So how about we go to the market on Friday morning.	"market"の"ket"の母音が弱化せずに[e]と発音されている。[会話 6．能力についてたずねる]
	Tell her to be careful.	"careful"の"ful"の母音が弱化せずに[u]と発音されている。[会話 11．依頼する]

上述の例にあるように内部圏の英・米英語で弱化される母音がアジア英語では弱化されず、完全母音（full vowel）として発音される傾向は、前節で述べたリズムの違いに起因するものと考えられる。すなわち英・米英語は強勢リズムを持ち、強勢が来る音節間に生起する弱音節の母音は弱母音として発音される傾向が強い（Kreidler, 2004）。これに対し、このアジアの 4 つの英語変種は音節リズムを持ち、音節が等間隔で生起するが、強音節と弱音節が交替するようなリズムを持たない。このため、弱化の現象が余り観察されないのではないかと推測される。

また、これら 4 つのアジア英語では音節主音的子音はあまり観察されないということが先行文献で指摘されている（インド英語：Gargesh, 2008; フィリピン英語：Tayao, 2008; シンガポール英語：Wee, 2008; マレーシア英語：Baskaran, 2008）。これは上述の母音が弱化しない傾向と関係がある。弱化の最も進行した形が母音削除であると考えられるからである。上記の例ではフィリピン英語[会話 39]の“direction”や、マレーシア英語[会話 11]の“careful”の最終音節は内部圏の英・米英語では音節主音的子音[n̩][t̩]が起こりうる環境であるが、ここでは明瞭な母音を直前に伴って発音されている。

７．無声破裂音の無気音化

内部圏の英・米英語では、無声破裂音/p, t, k/が強勢の来る音節頭に生起した時は通常は気音を伴って発音されるが、この 4 種のアジア英語では気音を伴わないで発音される傾向がある。

表 7. 無声破裂音が無気息音として発音されている例

モジュール名	スクリプト	発音説明
インド英語	That's one of the top business schools.	"top"の/t/は舌先を後方に反らせ、そり舌音[t]で発音されている（印英の特徴）。無気音なので、「ト」と「ド」の中間のように聞こえる。[会話 1．挨拶する]
	Please tell me what kind of saris you are interested in.	"tell"の/t/と"kind"の/k/は無気音で発音されている。[会話 2．注意をひく]
	Perfect.	"Perfect."の/p/は無気音で発音されている。[会話 12．例をあげる]
フィリピン英語	Long time no see.	"time"の/t/をはじめ、語頭の無声破裂音の気音が弱くなる傾向がある（比英語の特徴）。[会話 1．挨拶する]
	Ya, I'll pay you next time.	"pay"の/p/や"time"の/t/など、無声破裂音の気音は弱い（比英語の特徴）。
	Text me if you're in town.	"text"と"town"の/t/は無気音で発音されている。[会話 24．さよならを言う]
シンガポール英語	Yah, tempting siah.	"tempting"の/t/が無気音で発音されている。[会話 10．提案する]
	Know what time ah?	"time"の/t/が無気音で発音されている。[会話 28．時間についてたずねる]

シンガポール英語	Actually, there's a lot of things you need to take not in Singapore.	"take"の"t"と"Singapore"の"p"が無気音で発音されている。[会話 16．禁止する]
マレーシア英語	You have to wear long sleeve shirt and tie tomorrow.	"tie"の"t"が無気音で発音されている。[会話 3．人にものをあげる]
	I thought you were supposed to attend.	"attend"の"t"が無気音で発音されている。[会話 4．経験についてたずねる]
	We have to finish two assignments by tomorrow, right?	"two"の"t"が無気音で発音されている。[会話 4．しなくともよいと言う]

以上の例で示されているように、内部圏の英・米英語で、気音を伴って発音される音節頭の無声破裂音/p, t, k/が、これらの英語では無気音で発音される傾向がある。この傾向は先行文献でも指摘されている （インド英語：Sailaja, 2009; Gargesh, 2008; フィリピン英語：Tayao, 2004; シンガポール英語：Wee, 2008）。本モジュールでは上の例のように完全に無気音で発音される場合とわずかに気音を伴って発音される場合の両方が観察される。

Jenkins（2000）は内部圏の英語では気音を伴って発音される音節頭の無声破裂音が無気音で発音された場合、外部圏や拡大圏の英語話者同士の会話においては Intelligibility に影響を及ぼすと述べている。このことからも特にこれら英語圏の話者によって完全に無気音として発音された場合は語の聴き取りに注意する必要があるであろう。

８．暗い/l/の代わりに明るい/l/を使用

内部圏の英・米英語で暗い/l/が使われる語末や子音の前において、これらのアジア英語では明るい/l/が使用されている。

表 8. 暗い/l/の代わりに明るい/l/が使用されている例

モジュール名	スクリプト	発音説明
インド英語	That's one of the top business schools!	"school"の/l/は明るい l になっている（印英の特徴）。[会話 1. 挨拶する]
	Well, you need milk and rice.	"milk"の/l/は明るい l で発音されている。[会話 30. 特徴についてたずねる]
	Madam, leather goods and mobile phones are not allowed inside the temple.	"temple"の/l/は明るい l で発音されている。[会話 16. 禁止する]
フィリピン英語	The pictures were very simple.	"simple"の/l/の直前に母音が挿入され、明るい l で発音されている（比英語の特徴）。[会話 4. 経験についてたずねる]
	Don't worry, I will help you.	米英語・英英語とは異なり、"will"の/l/は「明るい l」で発音されている（米英語・英英語では母音の後の/l/は「暗い l」で発音され、ウ/オの音色を伴う）。[会話 9. 比べる]
	For example, when students become too silent and their silence becomes disturbing.	"example"の/p/と/l/の間に母音が挿入され、「エグザンポル」のように聞こえる。/l/は明るい/l/（比英語の特徴）。[会話 12. 例をあげる]
シンガポール英語	Cool.	"cool"の/l/は「明るい l」で発音されている。[会話 26. 予定を述べる]
	She's already out of the hospital.	"hospital"の/l/は「明るい l」で発音されている。[会話 34. 状況についてたずねる]
	Anyway, we should all go out for a meal soon, to catch up.	"meal"の母音は/i/と短母音化し、/l/は「明るい l」で発音されていて、「ミル」と聞こえる。[会話 20. 人を紹介する]

マレーシア英語	She sprained her ankle.	"ankle"の/l/は「明るい l」で発音されている。[会話 11．依頼する]
	If Hindu temple, then take her to Sri Maha Mariamman Temple.	"temple" "Temple"の/l/は「明るい l」で発音されている。[会話 16．禁止する]

以上の様に、内部圏の英・米英語で暗い/l/（軟口蓋化した側面音[ɫ]）が使われる語末や子音前の音声環境で、これら 4 つのアジア英語では明るい/l/が使われている。この特徴はこれら英語変種の音声的特徴を論じた先行研究でも指摘されている（インド英語：Sailaja, 2009; Gargesh, 2008; フィリピン英語：Tayao, 2008; シンガポール英語：Wee, 2008; マレーシア英語：Baskaran, 2008）。また、Jenkins（2000）では多くの英語話者が暗い/l/を明るい/l/で置換するが、語の intelligibility には影響を与えないと報告されている。

おわりに

本稿では異なる歴史的背景を持つインド英語、シンガポール英語、フィリピン英語、マレーシア英語に共通する音声的特徴を KANDA×TUFS 英語モジュールを通して考察した。これら 4 種のアジア英語の音声的特徴は先行文献でも指摘されているが、本英語モジュールの会話にも同様の特徴が現れていることが確認された。尚、これらの音声的特徴はこの 4 種のアジア英語話者の発話に必ず現れるわけではなく、話者によって、更には同一話者内でも状況によって、かなりのヴァリエーションが存在するという事実も注記しておく必要がある。また、これらのアジア英語話者が他の地域の英語話者とコミュニケーションを図る所謂“English as a Lingua Franca (ELF)”の状況では、英・米英語の標準的発音に近づけて自分達の発音を調整することも十分予想される。

本稿で取り上げたアジア英語の発音特徴は日本の英語教育や英語音声学で規範とされることが多い米英語や英英語の標準的な発音特徴とは異なっており、これらのアジア英語を聴き慣れていない日本人にとっては理解し辛いと感じるかもしれない。今後日本人英語話者はアジアの人々と英語で会話をする機会が益々増えることが予想される。Intelligibility は話者の発音の問題だけではなく、聴き手がその話者の発音の特徴に慣れているか否かにも大きく影響される（Derwing, Rossitier, & Munro, 2002）。その意味でアジア英語のモジュールを通して本稿で取り上げたアジア英語の音声的特徴に慣れておくことが日本人の ELF コミュニケーションにとって大いに有益なことだと言えるであろう。

謝辞

本稿は、日本学術振興会の科学研究費助成事業『多様な英語への対応力を育成するウェブ教材を活用した教育手法の研究』（基盤研究（B）、課題番号：18H00695、研究代表者：矢頭典枝）による研究成果の一部である。

＜参考文献＞

【欧文】

Baskaran, L. (2004). In W. Edgar, E. Schneider, and B. Kortmann (Eds.), *A handbook of varieties of English, vol. 1: Phonology* (pp. 1034-1045).). Berlin, Germany: Mouton de Gruyter.

Celce-Murcia, M., Brinton, D. M., and Goodwin, J. M. (2010). *Teaching pronunciation: A course book and reference guide* (2nd ed.). New York, NY: Cambridge University Press.

Dauer, R. M. (2005). The Lingua Franca Core: A new model for pronunciation instruction? *TESOL Quarterly, 39* (3), 543-550.

Derwing, T. M., Rossitier, M. J., & Munro, M. J. (2002). Teaching native speakers to listen to foreign-accented speech. *Journal of Multilingual and Multicultural Development, 23* (4), 245-259.

Gargesh, R. (2004). Indian English: phonology. In W. Edgar, E. Schneider, and B. Kortmann (Eds.), *A handbook of varieties of English, vol. 1: Phonology* (pp.992-1002). Berlin, Germany: Mouton de Gruyter.

Jenkins, J. (2000). *The phonology of English as an international language.* Oxford, England: Oxford University Press.

Kachru, B. B. (1985). Standards, codification and sociolinguistic realism: The English language in the Outer Circle. In R. Quirk and H. Widdowson (Eds.), *English in the world* (pp.11-30). Cambridge, England: Cambridge University Press.

Kreidler, C. W. (2004). *The pronunciation of English: A course book.* Blackwell Publishing Ltd.

Levis, J. (2018). *Intelligibility, oral communication, and the teaching of pronunciation.* Cambridge: Cambridge University Press.

Rogerson-Revell, P. (2011). *English phonology and pronunciation teaching.* New York, NY: Continuum International Publishing Group.

Sailaja, P. (2009). *Dialects of English - Indian English*. Edinburgh, Scotland: Edinburgh University Press.

Schneider, E. W. (2004). Global synopsis: phonetic and phonological variation in English world-wide. In W. Edgar, E. Schneider, and B. Kortmann (Eds.), *A handbook of varieties of English, vol. 1: Phonology* (pp. 1111-1137). Berlin, Germany: Mouton de Gruyter.

Smith, B. (2013). An acoustic analysis of voicing in American English dental fricatives. *Working Papers in Linguisti*cs, Ohio State University, vol. 60 (pp. 117-128).

Tayao, M. L. (2004). Philippine English: phonology. In W. Edgar, E. Schneider, and B. Kortmann (Eds.), *A handbook of varieties of English, vol. 1: Phonology* (pp. 1047-1059). Berlin, Germany: Mouton de Gruyter.

Trudgill, P. & Hannah, J. (2017). *International English: A guide to varieties of English around the world* (6th ed.). New York, NY: Routledge.

Wee, L. (2004). Singapore English: phonology. In W. Edgar, E. Schneider, and B. Kortmann (Eds.), *A handbook of varieties of English, vol. 1: Phonology* (pp. 1017-1033). Berlin, Germany: Mouton de Gruyter.

Zielinski, B. (2008). The listener: No longer the silent partner in reduced intelligibility. *System, 36* (1), 69-84.

【和文】

関屋康、矢頭典枝（2019）.「KANDA×TUFS 英語モジュールにみるインド英語の発音の特徴」『言語教育研究』（pp. 99-133）第 30 号、99-133 頁

関屋康、矢頭典枝、フィリップ・マーフィー（2015）.「KANDA×TUFS 英語モジュール―開発の意義と特徴―」『グローバル・コミュニケーション研究』第 2 号、1-17 頁

竹林滋（1996）『英語音声学』研究社

矢頭典枝（2018）.「KANDA×TUFS 英語モジュール「シンガポール英語版」にみる社会的・文化的特質」平成 27-29 年度 科学研究費助成事業 基盤研究（B）研究プロジェクト『アジア諸語の社会的・文化的多様性を考慮した通言語的言語応力達成度評価法の総合的研究―成果報告書（2015-2017）―』59-70 頁.

矢頭典枝（2021）.「KANDA×TUFS 英語モジュール「アジア英語版」にみる社会的・文化的特質：インド、フィリピン、マレーシア版を中心に」科学研究費助成事業 基盤研究（B）研究プロジェクト『アジア諸語の言語類型と社会・文化的多様性を考慮したCEFR 能力記述方法の開発研究―研究成果報告書（2018-2020）―』99-113 頁.

＜英語モジュール URL＞

「神田外語大学×東京外国語大学（KANDA×TUFS）英語モジュール」
http://labo.kuis.ac.jp/module/

「東京外国語大学言語モジュール 英語」http://www.coelang.tufs.ac.jp/mt/en/